

和菓子を核とした大井川川越遺跡の観光資源としての活用に関する研究

静岡産業大学 経営学部 中山研究室

教 員：客員教授 中山勝

参加学生：中村颯、稲葉侑大、櫻井亮太郎、廣瀬加緒理、
安間瑞稀、石ヶ谷陸、太田翔葉、近藤奈々世、
竹内清乃、佐藤大哉、岡本暢巧、小野優奈、杉
山海哉、海野健太、山崎竜也、望月琢未、若井
紀貴、遠藤千尋、中川香月、夏目久、吉田聖夜

1 要約

島田市及び先進事例を調査し、川越の番屋を拠点とした観光ボランティアガイドの創設、川越の番屋を活用した土産物店・茶店など景観にマッチした観光施設の運営、東海道島田宿と川越遺跡と和菓子店をめぐる周遊観光のアピールが有効であるとの結論に達した。和菓子バルイベントについては、イベントの事前段階から参画することで、ポスターの製作やSNSによる情報発信、学生が企画出演した動画の製作、イベントにおけるクイズラリーの実施により、イベントの新たな取組みの可能性を探り実施した。

2 研究の目的

本研究は、和菓子を核として川越遺跡を観光資源として活用していくための方策を提言することを目的として研究を行った。

3 研究の内容

(1)川越遺跡を観光資源として活用するための方策の検討

川越遺跡を観光資源として活用する方策について、川越遺跡及び島田市内の現地調査、ヒアリングを行うとともに、他の地域の事例を参考にしながら検討を行った。

①島田市博物館の職員の方々のヒアリングと意見交換

7月28日から11月3日の和菓子バルイベントの開催までの期間、学生と教員が班に分かれて、島田市博物館を訪問し、職員の方々のヒアリングを行うとともに、意見交換を行った。

また、島田市博物館の職員の方々に静岡産業大学藤枝キャンパスに来ていただき、学生との意見交換を行った。

②大井川川越遺跡の調査

7月28日から11月3日の和菓子バルイベントの開催までの期間、学生が班に分かれて、川越遺跡の調査を行った。川越遺跡に残る川会所、番屋などの建築物や展示の内容の調査を行った。また、建物を利用している織物体験の経営者や着物レンタルの職員の方のヒアリング調査を行った。

③島田市内の和菓子店の訪問調査

和菓子バルイベントに参加する和菓子店のうち、市街地にある店舗を訪問し、和菓子の調査を行った。また、川越遺跡と関係する旧東海道島田宿の旧本陣跡などの状況を調査した。

さらに、中山客員教授が島田掛川信用金庫の島田本部の地域創生部を訪問し、島田市が主催する和菓子バルイベントの説明を行うとともに、島田市の和菓子産業について意見交換を行った。

[島田市川越遺跡及び旧東海道島田宿の和菓子店の調査]



川越遺跡の建物を利用した織物体験教室



旧東海道島田宿にある和菓子店の訪問調査

④愛知県名古屋市緑区有松地区の先進事例調査(12月3日)

東海道の宿場町の有松地区は、平成28年に重要伝統的建造物群保存地区に選定、令和元年に日本遺産に認定され、歴史的街並みの保存と活用の先進事例である。有松・鳴海絞会館を見学した後、有松地域のまちづくり団体を母体とする「有松あない人の会」の2名のガイドの案内で、2グループに分かれ有松地区の伝統的な建造物の利用の変遷と現代の活用状況について説明いただいた。

旧東海道宿場町の豪商の建物を飲食店や販売店として活用することで保存を図っている点が特に参考になった。

⑤愛知県西尾市旧城下町地区の先進事例調査(12月4日)

西尾市の旧城下町地区は、平成7年に全国京都会議への加盟が認められ「三河の小京都・愛知西尾」を名のり、歴史的な街並みをめぐる「小京都めぐり」を展開し、お茶や和菓子、スーツも活用したもてなしを行っており、歴史的町並みを核に市街地の周遊を図る先進事例である。

訪問当日は、西尾市の歴史公園内の資料館を見学した後、茶室の尚古荘、茶屋の建物、城下町の街並みを散策ルートに沿って調査した。また、抹茶を活用した商品を調査するため、抹茶大判焼のカテキン亭、抹茶商の松鶴園、あいや、道の駅の売店を訪問し、抹茶を使った商品を調査した。

[名古屋市有松地区及び西尾市旧城下町地区の先進事例の調査]



名古屋市有松地区の調査



西尾市旧城下町地区の調査

(2)和菓子バルイベントのPR手法の検討

和菓子バルイベントのPRを開催前の段階から実践的に検討するとともに、イベントに参画し、イベントの新たな取組みの可能性やPR手法の改善策を検討・実施した。

①和菓子バルイベントのPR用のポスターのデザインの制作

学生が和菓子店を訪問調査して集めた和菓子のサンプルを活用して、コンピュータグラフィックスの技術を利用して、和菓子バルイベントのPR用のポスターのデザインを制作した。

②SNSを活用した和菓子バルイベントのPR

和菓子バルイベントへの集客を図るため、学生が和菓子バルイベントのアカウントを使って、SNSを活用して情報発信を行った。

③和菓子バルイベントのPR用の動画の製作

和菓子バルイベントへの集客を図るため、学生が着物を着て川越遺跡を散策し、和菓子を食べるというストーリーを考え、学生が出演して動画を撮影し、これを編集してPR用の動画の製作し、島田市に提供した。

④会場案内、和菓子の委託販売の支援

11月3日に島田市が主催して開催された「和菓子バル」イベントにおいて、学生が着物を着て、会場の設営、会場の受付案内所での会場の案内を行うとともに、島田市が行う和菓子の委託販売を支援した。

⑤クイズラリーの実施

11月3日に島田市が主催して開催された「和菓子バル」イベントにおいて、来客が島田市博物館や川越遺跡を回遊するようにするため、学生がクイズラリーを島田市に提案し実施した。学生が川越遺跡に関するクイズの問題と答えを作成し、会場の各地にクイズポイントを設置し、クイズに答えた人は、大学の備品のガチャガチャ機を使って抽選ができる仕組みにした。景品は和菓子店等が提供する割引券等を配布した。景品の抽選は、島田市が行うアンケート調査と連動して行った。

[和菓子バルイベントで着物を着て活動した学生]



和菓子バルでの和菓子の委託販売等の支援



学生が企画・運営したクイズラリー

4 研究の成果

(1) 当初の計画

本研究は、川越遺跡及び島田市内の現地調査、ヒアリングを行うとともに先進事例を調査し、川越遺跡を観光資源として活用するための方策の検討すること、及び和菓子バルイベントのPRを開催前の段階から実践的に検討するとともに、イベントに参画し、イベントの新たな取組みの可能性やPR手法の改善策を検討・実施する計画であった。

(2) 実際の内容（Aは予定どおり、Bは一部修正、Cは中止など）とその理由

A 計画した内容を予定どおり実施した。

(3) 実績・成果と課題

川越遺跡を観光資源として活用するための方策については、愛知県名古屋市緑区有松地区の「有松あない人の会」等の先進事例調査を踏まえて検討した結果、川越の番屋を拠点とした観光ボランティアガイドを創設すること、川越の番屋を土産物店・茶店など歴史的な景観にマッチした観光施設として観光協会等の公的な団体が運営することが有効であるとの結論に達した。また、西尾市旧城下町地区の「小京都めぐり」等の先進事例調査を踏まえ、東海道島田宿と川越遺跡と和菓子店をめぐる周遊観光をアピールすることが有効であるとの結論に達した。今後は、観光ボランティアガイドの育成や観光施設、周遊観光のための地域の体制づくりが課題である。

和菓子バルイベントについては、イベントの事前段階から参画することで、ポスターやSNSによる情報発信、学生が企画出演した動画、イベントにおけるクイズラリーなど、イベントの新たな取組みの可能性を検討し実施した。

(4) 今後の改善点や対策

イベントのPR期間が短いので、今年度作成したポスター、SNS、動画については、単年度のイベント限りのものとしないうで、毎年継続的に活用を図ることで、イベント前の早い段階からのPRが可能となると考えられる。

5 地域への提言

文化財を保全し継承していくためには、文化財の存在を広くアピールし、その利用を図っていく必要がある。そのためにはまず、川越遺跡を拠点とした観光ボランティアガイド、川越遺跡の番屋を活用した土産店・茶店等を運営する体制づくりが必要である。

また、和菓子バルイベントは島田市主催で行われているが観光協会や和菓子店などが企画段階から主体的に参画できるように実行委員会方式としていくことが考えられる。

6 地域からの評価

本研究を進めるに当たり、島田市博物館の職員の方々、川越遺跡の周辺の方々、和菓子店の方々のヒアリングをする中で、本研究に対する関心を持っていただいた。また、学生が作成したポスター、動画、クイズラリーについては、島田市をはじめ関係の方々から高い評価をいただき、静岡新聞でも取り上げていただいた。